ペット一般教養Ⅰ

愛玩動物看護学科	1年次	後期	15時間	必修	共通科目
			1単位	講義	教養的科目

■授業の概要

就職セミナー(業界就活事情、社会人の心構え、履歴書かき方、自己分析方法)

■到達目標

社会人の心構え、履歴書の書き方などの理解をする

■成績評価の方法等

出席点、提出物

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者であり、経営者としての視点からペット業界の就活事情や履歴書の書き方等を指導します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	履歴書の書き方 前提、履歴書選び方、注意点、自己ＰＲ・志望動機・特技・趣味以外の記入方法
3～4	ペット業界の現状 就活ステップ、就活スケジュール
5～6	自己分析 自己年表、長所・短所シート作成
7～8	自己ＰＲ ポイント、書き方
9～10	履歴書作成
11～12	志望動機 ステップ、書き方ポイント
13～14	履歴書作成
15	履歴書作成・完成 履歴書完成した学生は志望動機

特別活動Ⅰ

愛玩動物看護学科	1年次	通年	60時間	必修	共通科目
			2単位	講義	教養的科目

■授業の概要

スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力等を養う

■到達目標

協調性、課題発見力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、提出物、レポート

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：無

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～5	レクリエーションまたは健康診断
6～8	専科説明会
9～13	衛生管理
14～43	スクールフェスティバル 出店の準備から本番まで行う
44～50	校外学習（特定飼養動物）
51	進級説明会
52～53	衛生管理
54～55	衛生管理
56～60	ＩＰＣグループ　ゼミ発表会

適正飼養指導論

愛玩動物看護学科	1年次	前期	60時間	必修	共通科目
			2単位	実習	専門基礎科目

■授業の概要

犬との接し方や道具の使い方等、犬を扱う上で必要となる基本的な知識・技術を学ぶ

■到達目標

犬を扱う上での基本的な知識。技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

プロトリマー、ドッグトレーナー、愛玩動物看護師、ドッグブリーダー、それぞれの経験を持たれる講師陣が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	犬とは
3～5	社会人マナー、施設利用方法・案内、レクリエーション
6	人と犬の歴史　犬の起源、進化
7	犬の形態機能学的特徴
8	飼育する責任（動愛法とは、意識する項目）
9～10	レクリエーション
11	手入れと健康
12	飼育記録の必要性、記入方法、健康管理①
13～15	犬の触り方、行動管理
16	健康管理②
17	日常ケア①
18～20	飼育実習①(健康チェック、ケア、サークル出入)
21	健康管理③
22	日常ケア②
23～25	飼育実習②(健康チェック、ケア、散歩)
26	衛生管理

27	教材配布
28	食事管理
29～30	飼育実習③(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理)
31	週末実習について（インターンシップ、飼育管理実習説明）
32	ベイシングとは、ベイシング方法・注意点
33～35	飼育実習④(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理)
36	ブラッシングとは
37	交通安全
38～40	飼育実習⑤(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理、シャンプー)
41	季節ごとの管理　動物に影響を与える条件、各季節の注意点
42	施設利用方法注意
43～45	飼育実習⑥(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理、シャンプー)
46	爪切り、イヤーケア　道具の使用方法・注意点
47	犬の本能行動の問題 　本能と習性、社会構造、コミュニケーション、社会的距離、問題行動、問題行動の原因
48	教材配布
49～50	飼育実習⑦（各自今までの内容を復習しながら実施）
51～53	飼育実習⑧（各自今までの内容を復習しながら実施）
54	総復習
55	自己啓発
56～57	飼育実習⑨（各自今までの内容を復習しながら実施）
58	総復習
59	定期試験
60	今後について

動物愛護・適正飼養実習

愛玩動物看護学科	1年次	前期	60時間	必修	共通科目
			2単位	実習	専門基礎科目

■授業の概要

美容、訓練、看護、繁殖の基礎を学ぶ

■到達目標

美容・訓練・看護・繁殖の基礎的知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

美容実習はプロトリマー、訓練実習はドッグトレーナー、看護実習は愛玩動物看護師、繁殖実習はドッグブリーダーの実務経験者が担当し、それぞれの分野を専門的に指導します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	グルーミング ・ブラッシング、ネイルカット、イヤーケア
3～4	ベイシング ・肛門腺位置確認、肛門腺絞り　・シャンプー手順　・ドライヤー使用方法
5～6	クリッピング ・趾裏、お腹、肛門クリップ
7～8	鋏の開閉 ・趾周りカット　・趾裏カット、肛門周りカット
9～10	部分カット 桃尻、アンダー、エプロン、前肢飾り毛、耳飾り毛、尾カット
11～12	リボン付け
13～14	アタッチメントコームを使用したトリミング方法 スピードトリミング（鋏仕上げなし）
15～16	犬をしつける目的と訓練の進め方 ・しつけと訓練の違い　・褒める時・叱る時のポイント　・リーダーシップをとるために
17～18	基本服従5項目（命令の出し方） ・指示の出し方　・従わなかった時の対応の仕方　・リード操作の仕方、注意点
19～20	しつけの時期・時間、遊びの重要性 ・パピートレーニング　・犬との遊び、その重要性　・犬が喜ぶ訓練を心がけるために
21～22	モチベーター・報酬の種類、与える際の注意点 ・メリット・デメリット

23～24	基本服従５項目の教え方手順 ・ポイント、注意点
25～26	パフォーマンス ・教え方手順　・メリット
27～28	基本服従５項目を利用した遊び
29～30	保定とは ・立位、座位、横臥位の手順、注意点　・口輪装着方法　・体重測定
31～32	薬剤の投与Ⅰ（錠剤、液剤、点眼、点耳） 手順、注意点
33～34	バイタルサインの測定（体温、脈拍、呼吸） 手順、注意点
35～36	耳道洗浄・歯磨き・眼洗浄 手順、注意点
37～38	薬剤の投与Ⅱ（粉剤、軟膏） 包帯法の手順、注意点
39～40	緊急対応 手順、注意点
41～42	復習 ・保定、バイタルチェック、投薬など実技習得状況の確認
43～44	犬の測定方法（スタンダードと個体の違い） ・体長、体高、胸囲、胴囲、正姿勢について
45～46	繁殖学基礎① ・基礎　・発情生理　・交配の流れと精液組成　・発情犬と雄犬の反応
47～48	繁殖学基礎② ・妊娠とは　・偽妊娠とは　・妊娠診断　・胎児の成長
49～50	繁殖学基礎③ ・分娩の管理　・子犬の成長と管理　・母犬の管理
51～52	給餌の重要性 ・餌量計算基礎　・実例での計算練習
53～54	餌量計算（実践） ・担当犬の給餌量決定　・犬種、季節における変化等　・餌種変更方法
55～56	社会化について ・子犬の触り方
57～60	定期試験

動物形態機能学Ⅰ

愛玩動物看護学科	1年次	前期	30時間	必修	共通科目
			2単位	講義	専門基礎科目

■授業の概要

犬猫を中心に動物の身体の構造、機能を理解し、なりやすい疾患について学ぶ

■到達目標

犬猫の形態と機能、なりやすい疾患について理解する

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1	・形態機能学とは ・生命の姿、細胞の構造とDNAの働き
2	骨格系① ・役割、形状、骨格名称、骨格分類、椎骨式
3	骨格系② ・代表的疾患【骨折、脱臼】
4	骨格系③ ・代表的疾患【股関節形成不全、軟骨形成不全、関節炎】
5	筋肉系① ・役割、構造、形状　・代表的疾患【前十字靭帯断裂、多発性筋炎】
6	神経系① ・役割、構造　・代表的疾患【椎間板ヘルニア(ヘルニアの種類)、水頭症、泉門、癲癇】
7	内分泌系① ・役割、構造
8	内分泌系② ・代表的疾患【クッシング症候群、アジソン病、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症】
9	感覚器系①【聴覚】 ・役割、構造　・代表的疾患【外耳炎、耳血腫】
10	感覚器系②【視覚】 ・役割、構造　・代表的な疾患【白内障、緑内障、角膜炎、瞬膜腺突出】
11	感覚器系③【味覚】 ・役割、構造　・代表的な疾患【歯石、歯周病、口内炎】
12	感覚器系④【皮膚感覚】 ・役割、構造　・代表的疾患【膿皮症、脂漏症】

13	感覚器系⑤【嗅覚】 ・役割、構造　・代表的疾患【鼻炎、副鼻腔炎、鼻出血】
14	基礎、骨格系、筋肉系、神経系、内分泌系、感覚器系の復習
15	消化器系① ・役割、構造
16	消化器系② ・代表的疾患【下痢、便秘、肛門嚢炎、腸閉塞、巨大食道】
17	肝胆道系① ・役割、構造　・代表的疾患【黄疸、肝炎、肝リピドーシス】
18	膵臓① ・役割、構造　・代表的疾患【インスリノーマ、膵炎、糖尿病】
19	泌尿器系① ・役割、構造　・代表的疾患【膀胱炎、ネフローゼ症候群、尿路結石症】
20	腎臓① ・役割、構造　・代表的疾患【腎不全、腎盂腎炎】
21	生殖器系①（雄） ・役割、構造　・代表的疾患【前立腺肥大、包皮炎、精巣停留】
22	生殖器系②（雌） ・役割、構造　・代表的疾患【膣炎、子宮蓄膿症、乳腺腫瘍】
23	消化器系、肝胆道系、膵臓、泌尿器系、腎臓、生殖器系の復習
24	呼吸器系① ・役割、構造　・代表的疾患【気管支炎、肺炎、気管虚脱、水胸・気胸】
25	循環器系① ・役割、構造
26	循環器系② ・代表的疾患【心不全、門脈体循環シャント】
27	血液・リンパ系① ・役割、構造　・代表的疾患【高血糖、低血糖、貧血、リンパ腫】
28	腫瘍系疾患① ・腫瘍とは、分類、特徴、ステージ、予防、治療
29	呼吸器系、循環器系、血液・リンパ系、腫瘍系疾患の復習
30	試験対策

動物感染症学Ⅰ

愛玩動物看護学科	1年次	前期	30時間	必修	共通科目
			2単位	講義	専門基礎科目

■授業の概要

病原体になりうる微生物の感染予防方法を理解し、動物に健康維持に努める

■到達目標

ズーノーシス、寄生虫等の生態等を理解し、感染予防方法を身につける

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1	下痢と嘔吐 ・観察する内容　・種類、原因、対処法
2	応急処置が必要な症例①【日射病・熱射病・低体温症】 ・原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
3	応急処置が必要な症例②【胃拡張・胃捻転】 ・原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
4	応急処置が必要な症例③【外傷、火傷、骨折】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
5	応急処置が必要な症例④【痙攣、発作、溺れる、窒息、ショック】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
6	応急処置が必要な症例⑤【眼球突出、感電、中毒】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
7	寄生虫 ・寄生虫とは、宿主、寄生虫の分類　・腸管内寄生虫の基礎知識　・外部寄生虫の基礎知識
8	腸管内寄生虫①【回虫、鉤虫、鞭虫】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
9	腸管内寄生虫②【瓜実条虫、マンソン裂頭条虫】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
10	腸管内寄生虫③【コクシジウム、腸トリコモナス、ジアルジア】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
11	内部寄生虫【フィラリア】 ・特徴、寄生部位、症状、ライフサイクル　・予防、投薬の注意　・診断、治療、など
12	外部寄生虫①【ノミ、マダニ、アカラス】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染

13	外部寄生虫②【ヒゼンダニ、ミミヒゼンダニ、ツメダニ、ハジラミ】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染、注意事項、予防方法
14	滅菌と消毒① ・用語説明
15	滅菌と消毒② 【滅菌法】【消毒法】
16	滅菌と消毒③ 【消毒法】
17	滅菌と消毒④ ・各消毒薬の効果的な使用方法
18	不妊措置 ・犬猫の繁殖制限、目的、子供を産ませない方法(各方法利点・欠点)
19	ワクチンプログラム ・ワクチンとは、必要性、接種時・後の注意点、副作用、ワクチンの種類
20	狂犬病ワクチン・混合ワクチン ・それぞれの特徴　・ワクチンプログラム　・混合ワクチンの種類・選択方法
21	犬の混合ワクチンで予防できる感染症
22	猫の混合ワクチンで予防できる感染症
23	幼齢動物の管理
24	高齢動物の管理
25	ズーノーシス① ・ズーノーシスとは　・学ぶ意義　・狂犬病　・猫ひっかき病
26	ズーノーシス② ・破傷風　・トキソプラズマ　・皮膚糸状菌症　・幼虫移行症
27	ズーノーシス③ ・ノミ刺し症　・アニサキス症　・食中毒を引き起こす病原体　・レプトスピラ
28	ズーノーシス④ ・オウム病・マダニが媒介するズーノーシス　・ズーノーシスが増加した要因、予防方法
29～30	試験対策

動物健康管理

愛玩動物看護学科	1年次	前期	15時間	必修	共通科目
			1単位	講義	専門基礎科目

■授業の概要

健常な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、飼い主指導に活かす

■到達目標

犬猫の健康管理に必要な日常ケア方法、適正給餌方法を理解する

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1	美容の必要性 ・グルーミングとは　・健康管理上の必要性と美容的側面
2	グルーミング用品の基礎知識 ・クリッパー　・趾裏、お腹、肛門クリップ説明
3	鋏説明 趾周りカット　・方法、注意事項
4	部分カット説明 ・桃尻、アンダー、エプロン、前肢飾り毛、耳の飾り毛、尾のカット
5	スピードトリミング ・スピードトリミングとは　・アタッチメントコームの説明
6	リボン付け ・つけ方説明
7	グルーミング時に起こりうる事故 ・事故、処置法、予防
8	ライセンス前復習 ・皮膚の体表管理
9	・給餌学とは ・食餌の目的　・食餌を与える上で考慮すべき点
10	食餌の種類 ・利点、欠点　・フードを選択　・市販フード表示、購入時・後の注意点
11	食餌の回数や量を決めるにあたっての注意点 ・飲み水の必要性　・給餌の際注意する事(犬・猫)
12	犬猫の食性 ・食欲増進方法　・犬猫に与えてはいけないもの①

13	・犬猫に与えてはいけないもの② ・ライフステージ別の管理
14	栄養素①(炭水化物、脂質、タンパク質) ・各栄養素の特徴、過剰・欠乏で起こりうる症状
15	栄養素②(ビタミン、ミネラル、水) ・各栄養素の特徴、過剰・欠乏で起こりうる症状

動物愛護・適正飼養関連法規

愛玩動物看護学科	1年次	前期	15時間	必修	共通科目
			1単位	講義	専門基礎科目

■授業の概要

動物愛護及び管理に関する法律等の責務や規制事項を学ぶ

■到達目標

動物に関わる法規について理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	法律とは
3～4	動物の愛護及び管理に関する法律① ・法のあゆみ　・目的(概要)　・飼主の責任　・動物取扱業の規制
5～6	動物の愛護及び管理に関する法律② ・第一種取扱業と第二種取扱業　・動物取扱責任者、展示方法、販売方法
7～8	動物の愛護及び管理に関する法律③ ・特定動物　・危険動物の飼養規則　・犬及び猫の引き取り措置等
9～10	動物の愛護及び管理に関する法律④ ・負傷動物の通報　・実例と対処法　・災害時の対応
11～12	その他の動物関連法規 ・身体障碍(害)者補助犬法　・狂犬病予防法　・犬等の輸出入検疫規則　他
13～14	社会人として知っておくべき法律 ・個人情報の保護に関する法律　・労働基準法　・労働安全衛生法　他
15	定期試験

動物行動学

愛玩動物看護学科	1年次	前期	30時間	必修	共通科目
			2単位	講義	専門基礎科目

■授業の概要

・基本理念、本能行動の理解、行動発現のしくみ、犬と猫の主な問題行動と対処法を学ぶ

・犬種の特徴や性格を学ぶ

■到達目標

・犬の本能行動、行動心理を理解する

・各グループ、犬種の特徴性格を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

ドッグトレーナーとして実務経験のある講師が、主に犬猫を中心とした行動の種類、動物間のコミュニケーション法や犬種の特性について指導します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1	第1章　動物行動学の基本理念 ・学習をする目的　・犬と猫の進化と家畜化
2	第2章　維持行動 ・接食行動、飲水行動、排泄行動、身づくろい行動、休息行動　・護身行動
3～5	第3章　社会行動 ・社会行動とは
6	第3章までの復習 ・確認テストの実施
7	第4章　行動発現の仕組み ・行動の動機づけ　・行動の周期性
8～9	第5章　行動の発達と学習 ・犬の発達段階、猫の発達段階　・学習原理
10	第5章までの復習 ・確認テストの実施
11～12	第6章　問題行動と行動診療 ・問題行動とは　・行動修正法とは　・問題行動療法で用いるその他の方法
13～16	第7章　犬と猫における主な問題行動 ・犬・猫の攻撃行動　・恐怖・不安行動と治療・猫の排泄行動の治療
17	復習時間 ・確認テストの実施

18～19	犬の飼育管理について ・血統書説明　・犬体用語　・各グループ特徴説明
20	第 1 グループ 　特徴、原産国、サイズ、沿革説明
21	第 2 グループ 　特徴、原産国、サイズ、沿革説明
22	第 3 グループ 　特徴、原産国、サイズ、沿革説明
23	第 4 グループ 　特徴、原産国、サイズ、沿革説明
24～25	第 5 グループ 　特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第 6 グループ説明 　特徴、原産国、サイズ、沿革説明
26～27	第 7 グループ 　特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第 8 グループ 　特徴、原産国、サイズ、沿革説明
28～29	第 9 グループ 　特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第 10 グループ 　特徴、原産国、サイズ、沿革説明
30	定期試験

比較動物学Ⅰ

愛玩動物看護学科	1年次	後期	30時間	必修	共通科目
			2単位	講義	専門基礎科目

■授業の概要

エキゾチックアニマルや猫の生理、生態等から適正使用方法及び主な疾病について学ぶ

■到達目標

エキゾチックアニマルの特徴、猫種ごとの特徴等を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	猫の歴史 ・飼育管理　・適正な飼育について
3～4	猫の行動
5～6	血統書について ・顔の形　・体型タイプ　・目の色、形　・毛色と模様
7～10	各猫種説明 特徴、原産地、サイズ、沿革
11～12	ウサギ ・分類、品種、形態、習性、生理　等
13	ハムスター ・分類、品種、形態、習性、生理　等
14	モルモット ・分類、品種、形態、習性、生理　等
15	ピグミーヘッジホッグ、デグー ・分類、品種、形態、習性、生理　等
16	スナネズミ(トビネズミ) マウス(ラット) ・分類、品種、形態、習性、生理　等
17	チンチラ ・分類、品種、形態、習性、生理　等
18～19	シマリス、フクロモモンガ ・分類、品種、形態、習性、生理　等
20	フェレット ・分類、品種、形態、習性、生理　等

21	鳥類基礎知識 ・分類、品種、形態、構造　等
22	フィンチ類 ・分類、品種、形態、習性、生理　等
23	インコ・オウム類 ・分類、品種、形態、習性、生理　等
24	すり餌鳥、ニワトリ、ハト、水禽類、猛禽類 ・分類、品種、形態、習性、生理　等
25～26	爬虫類の基礎知識 ・分類、品種、形態、構造　等
27	カメ、ヘビ ・分類、品種、形態、習性、生理　等
28	トカゲ、カメレオン、イグアナ ・分類、品種、形態、習性、生理　等
29	復習
30	定期試験

公衆衛生学Ⅰ

愛玩動物看護学科	1年次	後期	30時間	必修	専門科目
			2単位	演習	専門科目

■授業の概要

人と動物との間に感染する疾患、その治療法や予防法、滅菌、消毒について学ぶ

■到達目標

各種感染症の感染経路、予防方法、治療方法などを理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～4	愛玩動物看護師と公衆衛生 ・公衆衛生の目的・方法・実施 ・獣医師及び愛玩動物看護師と公衆衛生
5～6	疫学① ・疫学とは ・健康障害の発生要因 ・疫学の指標
7～8	疫学② ・疫学研究方法 ・感染と流行 ・感染症対策 ・非感染症の疫学 ・サーベイランス
9～10	動物飼育下での感染症対策・公衆衛生の実施
11～12	人獣共通感染症① 病原体に関する安全対策
13～16	人獣共通感染症② ウイルス、真菌
17～20	人獣共通感染症③ 細菌、寄生虫
21～24	公衆衛生の実施 人類共通感染症予防のため、飼育環境整備

25～26	人獣共通感染症⑤ 新興感染症と再興感染症
27～28	人獣共通感染症⑥ 狂犬病予防の重要性
29～30	・復習 ・定期試験

人と動物の関係学

愛玩動物看護学科	1年次	後期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

動物が人間社会で果たしている役割、背景、歴史などについて学び、又社会人マナーについても学ぶ

■到達目標

動物が人間社会で果たしている役割や背景、歴史などを理解する

■成績評価の方法等

出席率、課題レポート

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	人間と動物の関わりの歴史 ・人と動物の関わり ・日本と西洋における動物との関わりの比較
3～4	現代の人と動物の関わり ・動物の飼育と利用の現状 ・人の生活に貢献する動物の役割
5～6	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育　① ・動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の定義と歴史
7～8	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育　② ・動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育を効果的に実践するには
9～10	ペットへの愛着と依存、ペットロス
11～12	人間の福祉と愛玩動物の関わり① ・動物虐待 ・多頭飼育崩壊
13～14	人間の福祉と愛玩動物の関わり② ・子供や高齢者への恩恵 ・加齢による飼育困難
15～20	人と動物の適切な関り方について実践 担当犬飼育を通し、犬から受ける恩恵について考える
21～25	動物飼育における適正指導① 担当犬飼育を通し、適切な犬との関り方・飼育方法を指導する知識を身に付ける

25～29	動物飼育における適正指導② 担当犬飼育を通し、疾病予防や公衆衛生など幅広い適正飼養を指導する力を身に付ける
30	試験

動物臨床検査学

愛玩動物看護学科	1年次	後期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

様々な臨床検査の原理や方法、意義、検体などの正しい扱い方などを学ぶ

■到達目標

各種臨床検査方法、意義等を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～4	全身検査 目、耳、口、鼻、皮膚、被毛、リンパ、爪、歩様、バイタル
5～6	臨床検査の基礎 ・臨床検査とは ・検査値の考え方 ・主な検査機器
7～10	血液検査　① ・採血部位および採血方法 ・血漿・血清の分離法 ・全血球計算（CBC） ・血液塗抹標本 ・ヘマトクリット管、凝固検査
11～15	血液検査　② ・生化学検査 ・血液ガス分析 ・免疫学的検査
16	血液検査　復習
17～18	尿検査 ・尿検体の採取法および取扱法 ・検査手順 ・尿沈渣
19～20	糞便検査 ・採便方法と観察

	・寄生虫の検査、消化試験
21～22	皮膚・耳道検査 ・スタンプ、掻き取り検査 ・耳垢検査
23～24	被毛検査
25～26	各種検査の実践①
27～28	各種検査の実践②
29	復習
30	定期試験

動物看護学概論

愛玩動物看護学科	1年次	後期	30時間	必修	専門科目
			2単位	演習	専門科目

■授業の概要

獣医療および獣医療における動物看護の歴史と概念を学ぶ　動物看護の役割と概念を学ぶ

■到達目標

動物看護の基本となる概念の習得、動物看護の提供体制の理解を深め愛玩動物看護師の社会的立場の理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～3	獣医療の歴史と概念 ・獣医療の歴史 ・獣医療倫理 ・動物看護の歴史と概念
4～7	獣医療における動物看護学の理論と特徴 ・動物看護理論の成立過程 ・動物看護学の成立 ・動物看護学と高等教育
8～10	国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり ・認定動物看護師の誕生 ・動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の　誕生 ・愛玩動物看護師の職能団体
11～14	動物看護の役割と概念 ・動物看護とは ・動物看護における倫理 ・動物にとっての福祉、健康、QOL ・看護動物に影響を与える環境要因 ・動物看護の探求
15～29	動物の保定、看護、診察補助の実践
30	定期試験

生命倫理・動物福祉

愛玩動物看護学科	1年次	後期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

生命倫理の考え方および動物愛護・動物福祉について学ぶ

■到達目標

生命倫理の概念の理解。動物福祉について愛玩動物・産業動物・実験動物・展示動物に分類してそれぞれを理解する

■成績評価の方法等

出席点、課題レポート

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	生命倫理と様々な動物観 ・生命倫理の考え方 ・生命倫理と獣医療の関わり ・動物観の歴史的変遷
3～4	動物福祉の概念　① ・動物福祉とは ・近代の動物愛護運動 ・現代の動物愛護運動 ・動物の権利と動物福祉
5～6	動物福祉の概念　② ・日本における動物愛護と世界における動物福祉 ・安楽死の考え方
7～8	動物福祉の評価 ・動物福祉の評価とは ・動物福祉の生理学的指標 ・動物福祉の行動学的指標
9～10	動物福祉と社会 ・動物福祉と社会 ・法律と動物福祉 ・経済活動と動物福祉 ・動物福祉教育、動物保護活動
11～12	愛玩動物の福祉　① ・現状と福祉

	・適正飼養と問題点（飼育放棄など） ・繁殖・流通・利用に関する福祉上の問題
13～14	産業動物の福祉　① ・産業動物福祉改善の歴史と定義 ・飼育概況と課題
15～16	産業動物の福祉　② ・産業動物の福祉上の主たる問題 ・国際的福祉基準
17～18	実験動物の福祉 ・実験動物福祉 ・3R の法則 ・環境エンリッチメント
19～20	展示動物・野生動物の福祉
21～29	動物福祉の評価・実践 担当犬飼育を通し、現在の動物福祉の評価・より必要な福祉の向上を考える。
30	総復習

動物医療コミュニケーションⅠ

愛玩動物看護学科	1年次	後期	15時間	必修	専門科目
			1単位	演習	専門科目

■授業の概要

日常健康管理に関わる飼主説明・教育や問診などについて学ぶ

■到達目標

飼い主対応方法、飼い主説明などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験、課題レポート

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～5	獣医療面接 ・問診方法 ・身体検査 ・獣医療面接の流れ
6～9	クライアントエデュケーション ・カルテ用語
10～14	院内コミュニケーションと動物病院マネージメント ・インフォームドコンセント ・チーム獣医療に欠かせないコミュニケーション能力 ・物品購入と管理 ・ペット保険
15	定期試験

愛玩動物学Ⅰ

愛玩動物看護学科	1年次	後期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

犬や猫の種としての行動様式を学び理解する

■到達目標

愛玩動物の歴史や品種、使役動物の役割、適切な飼養管理について理解する。
又、問題行動や行動治療について理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験、課題レポート

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	犬・猫の歴史と品種復習
3～4	エキゾチックアニマル概要
5～6	ウサギ　形態機能・習性・生理 代表的な疾患
7～8	ハムスター・モルモット 形態機能・習性・生理
9～10	ハムスター・モルモット 代表的な疾患
11～12	フェレット　形態機能・習性・生理 代表的な疾患
13～14	鳥類 形態機能・習性・生理
15～16	鳥類 代表的な疾患
17～18	血統と血統書
19～20	使役動物の歴史と福祉
21～22	補助犬（盲導犬・聴導犬・介助犬）の種類・歴史・現状

23～24	その他使役犬（災害救助犬・警察犬・麻薬探知犬など） 種類と特徴・及び現状
25～26	犬の問題行動・行動診療①
27～28	犬の問題行動・行動診療②
29～30	試験

動物臨床看護学総論Ⅰ

愛玩動物看護学科	1年次	後期	15時間	必修	専門科目
			1単位	演習	専門科目

■授業の概要

動物看護過程などについて学ぶ

■到達目標

動物看護過程などを理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験、

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	動物看護過程 目的、意義、方法、各ステップ、アセスメント 事例ごとの個別性、情報の整理、問題の明確化、動物看護計画の立案
3～9	動物看護過程の実施、評価
10	終末期患者動物の看護、安楽死Ⅰ ・安楽死の定義・安楽死の決定・終わりが近づいてきたとき・終わりのあと ・安楽死のストレス
11～12	終末期患者動物の看護、安楽死Ⅱ 　グループディスカッション形式にて行う ・終末期患者動物へはどのような看護をしていくべきか ・安楽死についてどのように考えるか
13	ペットロスサポートⅠ ・悲しみについて・悲しみの過程・悲しみの過程を複雑にする可能性のある要因 ・ケアにあたって
14	ペットロスサポートⅡ ・対処法 ・例題を出題し、その際どのように対応していくか考えさせる
15	定期試験

動物内科看護学実習

愛玩動物看護学科	1年次	通年	225時間	必修	専門科目
			7単位	実習	専門科目

■授業の概要

動物の管理や日常ケアを学び、動物を取り扱う基礎力を養う

■到達目標

動物の管理方法の基礎力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、課題レポート

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

企業連携であるわんわん動物園から指導を受け、プロトリマー、ドッグトレーナー、愛玩動物看護師、ドッグブリーダー、それぞれの経験を持たれる講師陣が担当し、実務レベルの管理能力を指導します。

回数	授　業　内　容
1～225	基本的な犬の扱い方と健康管理を学ぶ ・担当犬に対しての飼育記録のとり方 ・バイタルチェック、グルーミング、体重管理などの継続的な実践

動物外科看護学Ⅰ

愛玩動物看護学科	1年次	後期	30時間	必修	専門科目
			2単位	演習	専門科目

■授業の概要

外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する

■到達目標

外傷、創傷の種類と治癒過程、止血法について理解する。周術期に愛玩動物看護師としての役割を理解する。

■成績評価の方法等

出席点、定期試験、課題レポート

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	手術チームでの動物看護師の役割と準備 ① ・手術チームにおける動物看護士の役割 ・手術室に入る時
3～4	手術チームでの動物看護師の役割と準備 ② ・手指の消毒法 ・手の拭き方 ・ガウンとグローブの装着法
5～6	術前準備　① ・術前検査と術前手続き ・手術準備室と手術室の準備 ・動物の術前準備
7～8	術前準備　② ・麻酔の準備 ・手術時のポジショニング ・消毒の準備 ・術野の消毒法 ・ドレープの装着
9～10	麻酔・鎮静処置　① ・麻酔あるいは鎮静処置時における動物看護士の役割 ・麻酔あるいは鎮静処置の適応とリスク ・麻酔あるいは鎮静処置の問診と検査 ・麻酔・鎮静の手技

11～12	麻酔・鎮静処置　② ・導入・覚醒時のリスクと対処 ・麻酔看視項目 ・麻酔記録作成法 ・疼痛管理
13～14	術中補助・術後管理　① ・術中および術直後の動物看護の役割と看護援助 ・縫合剤と手術器具
15～16	術中補助・術後管理　② ・直接補助業務 ・間接補助業務
17～18	縫合材料と縫合法　① ・縫合糸の分類 ・縫合糸の特徴 ・縫合糸のサイズ ・縫合糸の特徴
19～20	縫合材料と縫合法　② ・縫合糸の包装 ・縫合糸の代替品 ・縫合糸の選択基準 ・縫合針 ・一般的な縫合方法
21～22	外科器具　① ・手術器具と使用法 ・一般的な手術器具セット ・整形外科器具とその使用方法
23～24	外科器具　② ・歯科器具の名称と使用方法 ・手術器具の手入れと維持管理
25～26	外科器具　③ ・滅菌準備 ・手術器具の滅菌 ・代表的な医療機器
27～28	創傷管理と包帯法 ・創傷の分類 ・術後の創傷管理 ・ドレッシング法、バンテージ法 ・褥瘡の予防
29～30	復習

動物看護総合実習Ⅰ

愛玩動物看護学科	1年次	通年	60時間	必修	専門科目
			2単位	実習	職業実践科目

■授業の概要

インターンシップでは、お客様に対する接客技術を習得することを目的とし、提携先の株式会社アイピーシーにて実務研修を行う

■到達目標

実務研修を通して接客技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、指導員評価点

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

企業連携であるわんわん動物園やペット美容室で実務研修の指導を受けます。

又獣医師・愛玩動物看護師の指導のもと付属動物病院にて診療補助を行います。

回数	授　業　内　容
1～10	インターンシップの必要性、業務内容の把握、あいさつの徹底
11～20	積極的にお客様に声をかける
21～50	往診補助の実施 ・PCP付属動物病院にて診察補助
51～60	報告・連絡・相談の徹底を図る スキルアップを図る

動物飼育管理実習Ⅰ

愛玩動物看護学科	1年次	通年	90時間	必修	専門科目
			3単位	実習	職業実践科目

■授業の概要

多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する

■到達目標

多種・多頭の生体の管理方法を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、指導員評価点

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

企業連携であるわんわん動物園から指導を受け、ペット関連業の実務経験者が主に犬に対する適正飼養と衛生管理等を指導します。

回数	授　業　内　容
1～90	【ステップ1】基本的な犬の扱い方や飼育方法を学ぶ 【ステップ2】ケア技術の強化、消毒等の施設美化のスキル向上 当番制で実施するため、報連相のスキルアップ 【ステップ3】各自の苦手克服を目的に、ＰＤＣＡを実践する

ペット一般教養Ⅱ

愛玩動物看護学科	2年次	通年	30時間	必修	共通科目
			2単位	講義	教養的科目

■授業の概要

就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説

■到達目標

就職活動の基本を理解し、適切な準備と活動ができる

社会人に求められるコミュニケーションはどのようなものか理解し、卒業後の会社生活に活かすことができる

■成績評価の方法等

出席点、課題評価

■授業計画（回数は月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者であり、経営者としての視点からペット業界の職業倫理や業界人としての心構えなどを指導します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～8	一般常識 ・SPI試験を受験するための一般常識(ことわざ、漢字等)
9～12	卒業研究について 研究の進め方、卒業レポートの書き方など
13～26	ペットビジネス 仕事で使う日本語、ビジネス用語、組織学など
27～30	社会人マナー 新入社員の心構え、社内マナーなど

特別活動Ⅱ

愛玩動物看護学科	2年次	通年	60時間	必修	共通科目
			2単位	実習	教養的科目

■授業の概要

主な学校行事であるスクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営又は協力。

年間行事を通し、グループ活動及び実行委員によるリーダーシップの育成

■到達目標

協調性を高める。物事に対する事前準備の確認や計画性の向上

■成績評価の方法等

出席点、取り組み姿勢

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：無

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～5	レクリエーションまたは健康診断
6～10	防災訓練
11～40	スクールフェスティバル 実行委員をリーダーに学生企画、出店の準備から本番まで行う （IPC番付出場者の練習会、本戦）
41～50	ゼミ発表 校内予選を行い、選抜された班はIPCグループ姉妹校との決戦に挑む
51～60	イベントインターンシップ（わんにゃんドーム） 出展企業のブースにてインターンシップを行う

ゼミナール

愛玩動物看護学科	2年次	通年	30時間	必修	共通科目
			2単位	演習	専門基礎科目

■授業の概要

課題研究と連動して動物の生体を研究する。プレゼン技術向上。

■到達目標

社会人スキルの向上及びコミュニケーション力の向上

卒業研究を通じてプレゼンテーションスキルを身につけ、表現力向上を図る。

■成績評価の方法等

出席点、取り組み姿勢

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～30	テーマ決め、計画書作成 計画書に則った実験を行う データ収集 プレゼンテーション作成

動物形態機能学Ⅱ

愛玩動物看護学科	2年次	通年	60時間	必修	専門科目
			4単位	講義	専門科目

■授業の概要

動物の生命維持の仕組みを形態、機能、生化学の面から学ぶ

■到達目標

動物の生命維持の仕組みを理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師として獣医療現場に携わる講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	生命のすがた　① ・体を形づくる基本物質 ・細胞の仕組みと働き ・遺伝
3～4	生命のすがた　② ・組織について ・器官の成り立ちと維持・調節システム
5～6	血液と造血器　① ・血液成分と血漿成分 ・赤血球の構造と機能
7～8	血液と造血器　② ・白血球の構造と機能
9～10	血液と造血器　③ ・血小板機能と血液凝固機序および線維素溶解
11～12	血液循環とその調節　① ・循環器系の概要 ・心臓の仕組み ・心筋の性質および興奮の伝導
13～14	血液循環とその調節　② ・心臓の周期 ・心電図 ・心臓機能の調節
15～16	血液循環とその調節　③

	・血管のしくみと働き ・血液循環の調節
17～18	血液循環とその調節　④ ・毛細血管の仕組み ・リンパ系および秘蔵の仕組み
19～20	血液・造血器、血液循環　復習
21～22	生体の防御機構 ・自然免疫と獲得免疫
23～24	脳と神経　① ・脳と神経系の役割 ・神経系を構成する細胞 ・静止膜電位と活動電位
25～26	脳と神経　② ・興奮の伝導とシナプスの伝導 ・シナプスについて
27～28	脳と神経　③ ・神経伝達物質と受容体 ・神経回路と神経系
29～30	脳と神経　④ ・脳の構成要素 ・脳神経 ・脊髄と脊髄神経 ・自律神経系・行動の神経調節
31～32	脳と神経　復習
33～34	感覚と情報伝達　① ・感覚系について ・受容器と閾値 ・体性感覚
35～36	感覚と情報伝達　② ・嗅覚 ・味覚
37～38	感覚と情報伝達　③ ・味覚と平衡感覚 ・視覚
39～40	骨格と骨格筋 ・体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分 ・骨格と骨格筋
41～42	感覚と情報伝達　骨格と骨格筋　復習
43～46	外皮系と体温調節

	・外皮 ・皮膚の付属器官 ・皮膚による体温調節機構
47～48	呼吸とその調節 ・呼吸器の構造と仕組み
49～50	内分泌とホルモン　① ・内分泌、外分泌、傍分泌の違い ・ペプチドホルモン、ステリドホルモン
51～52	内分泌とホルモン　② ・内分泌系の基本構造と機能
53～54	内分泌とホルモン　③ ・視床下部、下垂体、甲状腺の機能
55～56	内分泌とホルモン　④ ・上皮小体、副腎、ランゲルハンス島、消化管ホルモンの機能
57～58	呼吸、内分泌　復習
59～60	総復習

動物病理学

愛玩動物看護学科	2年次	前期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化などを学ぶ

■到達目標

様々な疾患が生体にもたらす変化を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師として獣医療現場に携わる講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～4	動物病理学の基礎
5～8	傷害と細胞死 ・代謝障害と変性 ・萎縮 ・壊死とアポトーシス
9～10	細胞や組織の修復と再生　① ・細胞増殖のメカニズム ・細胞の適応
11～12	細胞や組織の修復と再生　② ・創傷の分類 ・組織・細胞の修復と再生
13～14	循環傷害　① ・血液の循環傷害 ・組織液の循環傷害
15～16	循環傷害　② ・ショック
17～18	炎症　① ・炎症の定義 ・炎症の原因 ・炎症による形態的変化
19～20	炎症　② ・炎症の分類 ・急性炎症と慢性炎症

21～22	腫瘍　① ・腫瘍の定義 ・形態学的特徴 ・分類と命名
23～24	腫瘍　② ・増殖 ・腫瘍の生体への影響 ・腫瘍免疫
25～26	腫瘍　③ ・腫瘍の原因 ・発生メカニズム ・腫瘍の種類
27～28	先天異常
29～30	総復習

動物薬理学

愛玩動物看護学科	2年次	通年	60時間	必修	専門科目
			4単位	講義	専門科目

■授業の概要

薬物の体内動態と作用機序、臨床応用、副作用等について学ぶ

■到達目標

薬物の作用について理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師として獣医療現場に携わる講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	愛玩動物看護師による薬物の取り扱い
3～4	動物薬理学の基礎　① ・薬と薬理作用 ・薬理作用と発現機構 ・薬の剤型と投与法
5～6	動物薬理学の基礎　② ・生体内での薬の動態 ・薬効に影響を与える因子 ・薬の有害作用
7～8	薬理学基礎　復習
9～10	神経系に作用する薬　① ・基本事項 ・全身麻酔薬 ・局所麻酔薬
11～12	神経系に作用する薬　② ・鎮痛薬 ・骨格筋弛緩薬
13～14	神経系に作用する薬　③ ・鎮静薬・抗痙攣薬 ・問題行動治療薬
15～16	呼吸器系に作用する薬 ・呼吸興奮薬 ・鎮咳薬

	・抗喘息薬（気管支拡張剤）
17～18	神経系・呼吸器系に作用する薬　復習
19～20	循環器・泌尿器に作用する薬　① ・血管拡張剤 ・心不全治療薬
21～22	循環器・泌尿器に作用する薬　② ・抗不整脈薬
23～24	循環器・泌尿器に作用する薬　③ ・利尿剤 ・抗利尿剤
25～26	消化器に作用する薬　① ・制吐剤と催吐剤 ・抗潰瘍薬 ・消化管運動促進薬と抑制薬
27～28	消化器に作用する薬　② ・止瀉剤 ・瀉下薬 ・肝・膵疾患治療薬
29～30	循環器・泌尿器、及び消化器にそれぞれ作用する薬　復習
31～32	オータコイド、内分泌・代謝系の薬　① ・オータコイド ・抗炎症薬
33～34	オータコイド、内分泌・代謝系の薬　② ・糖尿病治療薬 ・甲状腺機能障害の治療薬
35～36	オータコイド、内分泌・代謝系の薬　③ ・脂質代謝異常の治療薬 ・骨代謝異常の治療薬
37～38	血液に作用する薬 ・貧血の発生機序と抗貧血薬 ・血液凝固阻害薬 ・止血薬
39～40	オータコイド、代謝に作用する薬、血液に作用する薬　復習
41～42	免疫に作用する薬　① ・免疫に影響を与える薬
43～44	免疫に作用する薬　② ・ワクチン

45～46	化学療法薬　① ・抗腫瘍薬
47～48	化学療法薬　② ・抗菌薬・抗真菌薬
49～50	化学療法薬　③ ・駆虫薬・抗原虫薬
51～52	化学療法薬　④ ・殺虫薬
53～54	化学療法薬　③ ・消毒薬
55～56	免疫に作用する薬、化学療法薬　復習
57～58	総復習
59～60	定期試験

動物感染症学Ⅱ

愛玩動物看護学科	2年次	通年	60時間	必修	専門科目
			4単位	講義	専門科目

■授業の概要

微生物などの生物学的特性、伝播様式、感染防御に関わる免疫学の基礎などについて学ぶ

■到達目標

微生物などの特性や免疫学などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	序論～微生物学の歴史～
3～4	ウイルス学総論 ・ウイルスの分類 ・ウイルスの大きさ・構造 ・増殖、感染、変異 ・伝播
5～6	細菌学総論　① ・細菌の分類 ・細菌の大きさ・形態・構造 ・細菌の増殖伝播
7～8	細菌学総論　② ・細菌の遺伝子 ・細菌の感染・発症
9～10	真菌学総論　プリオン総論
11～12	微生物検査法　① ・微生物検査におけるバイオセーフティー ・滅菌と消毒 ・ウイルス検査法
13～14	微生物検査法　② ・細菌検査法 ・真菌検査法 ・プリオン病の検査・診断法

15～16	微生物検査法　③ ・薬剤感受性試験 ・PCR 検査法
17～18	免疫応答の異常 ・自己免疫による疾患 ・免疫異常による疾患 ・移植による免疫反応
19～20	動物感染症　① ・感染経路と伝播様式 ・感染症と病原体
21～22	動物感染症　② ・ワクチン ・抗ウイルス薬 ・抗菌薬と薬剤耐性菌
23～24	感染症の制御・制圧
25～27	感染症学　各論　① ・ウイルス疾患　⑴
28～29	感染症学　各論　② ・ウイルス疾患　⑵
30～31	感染症学　各論　③ ・細菌疾患、真菌疾患
32～33	感染症学　各論　④ ・産業動物の感染症　⑴
34～35	感染症学　各論　⑤ ・産業動物の感染症　⑵
36～37	感染症学　各論　⑥ ・実験動物の感染症
38～39	感染症学　各論　⑦ ・エキゾチックペットと野生動物の感染症
40～41	寄生虫学総論
42～43	原虫類　①
44～45	原虫類　②
46～47	蠕虫類　① ・線虫類　⑴
48～49	蠕虫類　② ・線虫類　⑵
50～51	蠕虫類　③

	・吸虫類
52～53	蟯虫類　④ ・条虫類
54～55	衛生生物 ・ダニ ・ノミ
56～57	寄生虫の診断と検査
58～60	総復習

動物栄養学

愛玩動物看護学科	2年次	通年	60時間	必修	専門科目
			4単位	講義	専門科目

■授業の概要

五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い各種療法食の特色や給餌方法を習得する

■到達目標

基礎栄養および栄養要求量の理解　フードと栄養指導について理解

疾患と栄養の関係性　給餌方法の把握

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	犬と猫の基礎栄養　① ・栄養と栄養素 ・犬・猫の食性、摂食行動、摂食量、飲水量
3～4	犬と猫の基礎栄養　② ・犬や猫に与えてはいけない食材・添加物
5～6	栄養評価法　① ・犬と猫エネルギー評価法 ・犬いと猫の栄養要求量ガイドライン
7～8	栄養評価法　② ・犬と猫のライフステージと栄養 ・犬と猫の栄養状態評価法
9～10	基礎栄養と栄養評価法　復習
11～12	フード　① ・フードの歴史と種類
13～14	フード　② ・フードの製造方法
15～16	フード　③ ・フードに使用される原料
17～18	フード　④ ・サプリメント

	ペットフードの法規制
19～20	栄養指導　① ・理想体重 ・フードの選択および適切な給与量」
21～22	栄養指導　② ・肥満、削痩
23～24	フード　栄養指導　復習
25～28	疾患と栄養の関係　① ・慢性腎臓病の栄養管理
29～32	疾患と栄養の関係　② ・尿石症の栄養管理
33～36	疾患と栄養の関係　③ ・心血管系疾患の栄養管理
37～40	疾患と栄養の関係　④ ・消化器疾患の栄養管理
41～44	疾患と栄養の関係　⑤ ・肝疾患の栄養管理
45～48	疾患と栄養の関係　⑥ ・糖尿病の栄養管理
49～52	疾患と栄養の関係　⑦ 皮膚疾患・アレルギー疾患の栄養管理
53～54	栄養管理　① ・非経腸栄養法 ・経口栄養剤
55～56	栄養管理　② ・強制給餌法 ・経胃栄養剤と経腸栄養剤
57～58	栄養管理　③ ・カテーテル/チューブの維持管理方法 ・食事管理失宣による症状及び対応方法
59～60	総復習

動物看護関連法規

愛玩動物看護学科	2年次	前期	15時間	必修	専門科目
			1単位	講義	専門科目

■授業の概要

動物看護に関する基本的な法律について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。

■到達目標

法律の体系の理解、獣医療の法規と愛玩動物看護師の関わり、愛玩動物看護師法の理解
獣医療に必要な獣医療関連行政法規、公衆衛生法規、薬事行政法規についても理解する。

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	法の基礎知識 動物の愛護及び管理に関する法律
3～4	獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法、家畜保健衛生所法
5～6	飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律、ペットフード安全法 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、狂犬病予防法
7～8	と畜場法、化製場等に関する法律、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律 食品衛生法、身体障碍者補助犬法、
9～10	絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律、ラムサール条約、ワシントン条約 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律
11～12	特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律、生物多様性基本法、 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
13～14	医薬品医療機器等の品質有効性及び安全性の確保などに関する法律、労働基準法、 製造物責任法、個人情報の保護に関する法律
15	試験

動物臨床看護学各論

愛玩動物看護学科	2年次	通年	120時間	必修	専門科目
			8単位	講義	専門科目

■授業の概要

様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ、各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。

■到達目標

徴候や疾患の理解と対処、代表的な徴候および疾患について理解する。担がん患者の看護について理解する。

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師として獣医療現場に携わる講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	疾患学とは、疾患学を学ぶにあたって
3～7	正しい診断へのステップ 　バイタルサイン、体重、全身検査
8～12	骨格系疾患 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・各疾患の状態、原因、予防、治療、看護
13～16	筋肉系疾患 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
17～21	感覚器系【視覚】 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
22～28	感覚器系【皮膚感覚】 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
29～32	感覚器系【聴覚】 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
33～37	循環器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護

38～42	呼吸器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
43～52	消化器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
53～57	泌尿器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
58～62	生殖器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
63～67	内分泌系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
68～72	神経系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
73～77	血液・リンパ系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
78～82	感染性疾患 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
83～87	がん疾患 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・悪性腫瘍の特徴・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
88～119	試験対策 各種疾患特徴、治療、看護の注意など
120	定期試験

動物臨床看護学実習

愛玩動物看護学科	2年次	前期	60時間	必修	専門科目
			2単位	実習	専門科目

■授業の概要

動物看護過程、疾患別看護などの実践を行う

■到達目標

動物看護過程、疾患別看護を実際に行うことで、その知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～59	骨格系、筋肉系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、 消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系 　模型や生体を見ながら名称・配置・形態・機能を確認 スケッチや触診などでも確認
60	定期試験

動物臨床検査学実習

愛玩動物看護学科	2年次	後期	60時間	必修	専門科目
			2単位	実習	専門科目

■授業の概要

動物看護過程、疾患別看護などの実践を行い、各種検査の実施、補助を行う

■到達目標

動物看護過程、疾患別看護を実際に行うことで、その知識・技術を身につけ、それに伴う各種検査の実施

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1	臨床検査とは 生体から得られる材料、スクリーニング検査、特殊検査
2～4	全身検査
5～10	糞便検査
11～14	尿検査
15～25	皮膚被毛検査
26～32	血液検査
33～34	骨髄検査 目的、検出できる異常、検査手順
35～36	X線検査 放射線に関する知識、撮影の為の予備知識、撮影にあたって
37～38	超音波検査 超音波に関する知識、超音波検査の予備知識、検査にあたって
39～40	心電図・血圧検査 心電図の原理と基礎、心電計の種類、検査の為の予備知識、心電図の読み方、検査の手順
41～42	内視鏡検査 内視鏡に関する知識、消化管内視鏡の予備知識、検査の手順
43～44	CT・MRI検査 CTとMRI検査の違い、CT検査とは、MRI検査とは
45～46	神経学的検査

	姿勢反応と脊髄反射、脳神経検査法、神経学的検査の評価記録法
47～49	眼科検査 シルマー試験、フルオレセイン試験の検査手順、注意点、眼圧測定手順、注意点 眼底検査手順、注意点
50～51	細胞診と病理組織検査 細胞診断の目的と方法、病理組織検査の検体取扱法
52～53	顕微鏡 各部位名称、操作方法、管理方法
54～60	骨格系、筋肉系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、 消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系 模型や生体を見ながら名称・配置・形態・機能を確認 スケッチや触診などでも確認

動物形態機能学実習

愛玩動物看護学科	2年次	通年	30時間	必修	専門科目
			1単位	実習	専門科目

■授業の概要

動物の形態、機能などについて模型などを通じて学ぶ

■到達目標

動物の形態、機能などを模型や生体などを通して学び、理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～29	骨格系、筋肉系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、 消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系 　模型や生体を見ながら名称・配置・形態・機能を確認 　スケッチや触診などでも確認
30	定期試験

動物外科看護学実習Ⅰ

愛玩動物看護学科	2年次	通年	30時間	必修	専門科目
			1単位	実習	専門科目

■授業の概要

手術準備、術中、術後の管理、救急救命などの実践を行う

■到達目標

手術準備、術中、術後管理など実際に行うことで、より実践的な知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師として獣医療現場に携わる講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～6	外傷・創傷管理
7～11	手術前管理
12～16	手術中管理、麻酔
17～21	手術後管理、救急救命、理学療法
22～26	手術前管理、手術後管理　飼主説明
27～30	手術 　実施

実験・野生動物学

愛玩動物看護学科	2年次	前期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

実験動物の品種や飼養管理方法、実験動物との関わり、日本の野生動物の種類と保全、展示動物の個体・群管理について学ぶ

■到達目標

実験動物の歴史・管理・種類、野生動物、展示動物について理解する。

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	実験動物学総論 ・動物実験の目的と配慮 ・実験動物とは ・実験動物の歴史 ・関連法規
3～4	実験動物の管理学　① ・管理学
5～6	実験動物の管理学　② ・動物実験の基本技術 ・動物飼育管理上の注意点
7～8	代表的な実験動物の特性と飼育管理　① ・マウス ・ラット ・シリアンハムスター ・チャイニーズハムスター
9～10	代表的な実験動物の特性と飼育管理　② ・スナネズミ ・モルモット ・ウサギ ・サル類 ・その他
11～12	疾患モデル動物

13～14	動物実験の代替法
15～16	実験動物　復習
17～18	野生動物　① ・野生動物の分類と生物多様性 ・鳥獣害の現状と管理の意義 ・絶滅危惧種の定義に含まれる動物、原因、保全方法やその意義
19～20	野生動物　② ・外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策 ・野生動物の救護
21～22	野生動物　③ ・野生動物の病気と事故 ・野生ｄ方物の救護体制
23～24	展示動物
25～26	野生動物　展示動物　復習
27～29	復習
30	定期試験

動物救急救命学

愛玩動物看護学科	2年次	前期	15時間	必修	専門科目
			1単位	講義	専門科目

■授業の概要

エマージェンシーの原因と病態を理解し、救急救命措置を学ぶ

■到達目標

救命措置の手段について説明ができるよう理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	生命徴候のアセスメント
3～4	CPAを起こす要因・ショックの病態と分類
5～6	腹腔内出血の病態 身体検査・救命措置・看護介入
7～8	熱中症の病態 身体検査・応急処置・看護介入
9～10	消化管閉塞の病態 身体検査・応急処置・看護介入
11～12	けいれん発作 身体検査・応急処置・看護介入
13～14	CPR　心肺蘇生処置
15	定期試験

動物看護学総合実習Ⅱ

愛玩動物看護学科	2年次	通年	60時間	必修	専門科目
			2単位	実習	職業実践科目

■授業の概要

提携先の動物病院などで実践を行い、より実践的な技術・知識を習得する

■到達目標

実際の病院で実務を行い、即戦力なる知識・技術の習得を目指す

■成績評価の方法等

出席点、レポート提出

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～15	アイピーシー付属動物病院へ実習
16～30	宇野獣医科病院へ実習
31～59	病院業務の実践 アイピーシー保有犬の往診実習
60	定期試験

動物飼育管理実習Ⅱ

愛玩動物看護学科	2年次	通年	110時間	必修	専門科目
			3単位	実習	職実実践科目

■授業の概要

動物看護過程、疾患別看護などの実践を行う

■到達目標

動物看護過程、疾患別看護を実際に行うことで、その知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート提出

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～107	骨格系、筋肉系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、 消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系 　模型や生体を見ながら名称・配置・形態・機能を確認 スケッチや触診などでも確認
108～110	定期試験

ペット一般教養Ⅲ

愛玩動物看護学科	3年次	前期	15時間	必修	共通科目
			1単位	講義	教養的科目

■授業の概要

就職セミナーを始め、就職後に必要な一般常識を学ぶ

■到達目標

就職活動の準備で必要なことの理解、社会人としての目標の設定とコミュニケーション力の向上

■成績評価の方法等

出席点、提出物

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連企業の実務経験者であり、経営者としての視点からペット業界の就活事情や履歴書の書き方等を指導します。

回数	授　業　内　容
1～8	就職セミナー ・電話のかけ方 ・証明写真の撮り方 ・面接対策 ・履歴書指導
9～15	一般常識② 就職後の一般的な礼儀作法や常識について

特別活動Ⅲ

愛玩動物看護学科	3年次	通年	60時間	必修	共通科目
			2単位	実習	教養的科目

■授業の概要

スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力等を養う

■到達目標

協調性、課題発見力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、提出物、レポート

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：無

回数	授　業　内　容
1～5	球技大会
6～8	専科説明会
9～13	衛生管理
14～43	スクールフェスティバル 出店の準備から本番まで行う
44～50	校外学習（特定飼養動物）
51	進級説明会
52～53	衛生管理
54～55	衛生管理
56～60	ＩＰＣグループ　ゼミ発表会

課題研究

愛玩動物看護学科	3 年次	通年	45 時間	必修	共通科目
			3 単位	演習	専門基礎科目

■授業の概要

卒業研究及び卒業論文の作成

■到達目標

問題把握能力の向上

■成績評価の方法等

出席点、卒業レポート

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～45	ゼミナールにてデータ収集を行った資料を使用し、卒業レポートを作成する

動物形態機能学Ⅲ

愛玩動物看護学科	3年次	通年	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各段階で理解する

■到達目標

各分野別に、それぞれの形態・機能を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～2	消化吸収と栄養代謝 ① ・歯の分類と数 ・舌、咽頭、食道
3～4	消化吸収と栄養代謝 ② ・胃、腸の仕組みと働き
5～6	消化吸収と栄養代謝 ③ ・唾液腺、膵臓、肝臓
7～8	消化吸収と栄養代謝　④ ・炭水化物・たんぱく質・脂肪の消化と吸収 ・代謝
9～10	消化吸収と栄養代謝　⑤ ・炭水化物・たんぱく質・脂肪の代謝経路 ・ビタミン、ミネラル
11～12	尿の生成と体液調節　① ・腎臓 ・尿路
13～14	尿の生成と体液調節　② ・体液、電解質バランス
15～16	尿の生成と体液調節　③ ・酸塩基平衡
17～30	動物形態機能学　　全般　復習

公衆衛生学Ⅱ

愛玩動物看護学科	3年次	前期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

人と動物との間に感染する疾患、人獣共通感染症について治療法、予防法、疫学調査法、消毒について学ぶ

■到達目標

公衆衛生の目的を理解し、行政や国民衛生の動向を把握する。疾病と疾病予防について、発生要因、調査方法、予防疫学から理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～2	食品衛生　① ・食品衛生法 ・食中毒
3～4	食品衛生　② ・食品とアレルギー ・動物性食品の衛生
7～8	食品衛生　③ ・食品の保存方法 ・食品安全行政の動向 ・食品由来の健康危害防止
9～10	環境衛生　① ・環境衛生とは ・地球規模の環境問題
11～12	環境衛生　② ・水の衛生 ・生活環境問題
13～14	環境衛生　③ ・廃棄物問題 ・衛生動物
15～16	愛玩動物看護師と公衆衛生　復習

17～20	疫学と疾病予防　復習
21～24	人獣共通感染症　復習
25～27	食品衛生　復習
38～29	環境衛生　復習
30	定期試験

比較動物学Ⅱ

愛玩動物看護学科	3年次	後期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

使役動物や野生動物の概要を理解するとともに産業動物の歴史や品種、飼養管理方法について学ぶ

■到達目標

動物の種類と特性を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～2	産業動物とは 馬の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
3～4	牛 ① 牛の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
5～6	馬 馬の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
7～8	豚 豚の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
9～10	羊 綿羊の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
11～12	山羊 山羊の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
13～14	鶏 鶏の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
15～16	畜産業 日本の酪農業の概要（農場ＨＡＣＣＰ） 酪農業の概要、牛肥育業の概要、養豚業の概要、養鶏業の概要、主な畜産物
17～18	げっ歯類 げっ歯類の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
19～20	フェレット フェレットの歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
21～22	カメ カメの歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能

23～24	エキゾチックアニマルの繁殖過程
25～29	総復習
30	定期試験

動物医療コミュニケーションⅡ

愛玩動物看護学科	3年次	前期	15時間	必修	専門科目
			1単位	講義	専門科目

■授業の概要

スタッフとのコミュニケーション、又飼い主に対してのコミュニケーションなどについて学ぶ。

■到達目標

飼い主とのコミュニケーションだけでなく、スタッフ同士のコミュニケーション方法も身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1	飼主説明（来院時、往診時）、必要性、手順方法
2～4	疾病予防の説明
5～7	健康管理の説明
8～10	薬の説明
11～13	処方食の説明
14～18	各疾患の説明
19～20	手術の説明
21～23	アニコムレセプター
24～26	受付業務と物品購入、管理
27～29	試験対策
30	定期試験

動物臨床看護学総論Ⅱ

愛玩動物看護学科	3年次	前期	15時間	必修	専門科目
			1単位	講義	専門科目

■授業の概要

動物看護過程から、事例ごとの個別性応じた動物看護の基本的な考え方を学ぶ

■到達目標

事例ごとの個別性に応じた対応方法などの基本的な考え方を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～4	診療記録 カルテの作成方法、 動物看護記録の目的別、書式に応じた作成法
5～8	動物看護業務 チーム獣医療における看護師の役割 ケアの標準化 事故管理・防止について 家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導
9～12	ターミナルケア 目的、意義 ＱＯＬ・ホスピス・緩和ケア エンゼルケア
13～14	動物看護過程の実施、評価
15	定期試験

動物外科看護学Ⅱ

愛玩動物看護学科	3年次	後期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

外科手術において必要な知識、外科手術で使用される薬品などを学ぶ

■到達目標

外科手術前の準備、外科手術中の看護管理、外科手術後の動物の状態確認を一連の流れで理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～2	手術チームの動き ・手術におけるチーム医療
3～4	術前管理① ・術前検査
5～6	術前管理② ・動物の状態確認
7～8	術中管理② ・麻酔管理
9～10	術中管理② ・外回りの動き
11～12	術中管理③ ・助手の動きについて(第一助手、第二助手)
13～30	外科手術のデモンストレーション

動物内科看護学

愛玩動物看護学科	3年次	通年	90時間	必修	専門科目
			6単位	講義	専門科目

■授業の概要

内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、初見の記録などについて理解する。

■到達目標

健康の保持・増進。診療補助に必要な技術について理解する。

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～2	動物の健康保持・増進 ・入院動物の日常管理 ・ワクチネーション ・外部寄生虫の確認 ・入院看護
3～4	衛生・安全管理と環境整備 ・検疫と隔離 ・感染コントロール 。事故防止、環境整備
5～6	対動物関係の技術　① ・安全な散歩および運動技術
7～8	対動物関係の技術　② ・ハンドリングと保定法 ・状況に応じた保定法
9～10	動物の生活を援助するための技術　① ・食生活 ・栄養状態管理・評価 ・摂食行動のアセスメントと援助方法
11～12	動物の生活を援助するための技術　② ・排泄のアセスメントと援助方法
13～14	動物の生活を援助するための技術　③ ・清潔行動、急速・睡眠のアセスメントと援助方法

15～16	診療補助に必要な技術
17～18	検査・処置の介助に必要な技術　① ・注射器の取り扱い ・採血 ・穿刺
19～20	検査・処置の介助に必要な技術　② ・カテーテル挿入・留置 ・侵襲の可能性をともなう処置 ・マイクロチップの挿入
21～22	投薬に関わる技術　① ・投薬に際して確認すべき項目 ・各剤形の取り扱い
23～24	投薬に関わる技術　② ・薬剤の保存 ・投与方法とその介助
25～26	輸液に関わる技術　① ・動物看護士の役割 ・輸液の適応とリスク ・輸液計画 ・適応と特性
27～28	輸液に関わる技術　② ・輸液に関わる手技 ・静脈留置設置の準備と手順、モニタリング
29～30	輸血に関わる技術　① ・輸血とは ・輸液の適応とリスク
31～32	輸液に関わる技術　② ・血液型と輸血 ・輸血計画
33～34	輸液に関わる技術　③ ・輸血の手順 ・輸血後の血液検査
35～36	心電図と血圧測定に関わる技術　① ・心電図
37～38	心電図と血圧測定に関わる技術　② ・血圧測定
39～40	X 線検査に関わる技術　① ・X 線検査の目的と動物看護士の役割 ・放射線と X 線撮影の原理 ・撮影条件と X 線フィルム

41～42	X 線検査に関わる技術　② ・撮影体位と方法 ・造影検査
43～44	X 線検査に関わる技術　③ ・フィルムの現像と読影準備 ・透視撮影とコンピュータ X 線撮影法 ・被爆
45～46	超音波検査に関わる技術　① ・超音波装置の原理と構造 ・超音波検査の実際
47～48	超音波検査に関わる技術　② ・超音波装置を用いた特殊な検査
49～50	内視鏡検査に関わる技術　① ・内視鏡の分類と構造、内視鏡検査の実際
51～52	内視鏡検査に関わる技術　② ・スコープの洗浄消毒 ・その他の内視鏡検査
53～54	その他画像検査に関わる技術　① ・CT
55～56	その他画像検査に関わる技術　② ・MRI
57～58	神経学的検査に関わる技術　① ・検査環境、必要な道具
59～60	神経学的検査に関わる技術　② ・実際の検査方法
61～68	眼科検査に関わる技術 ・眼科神経学的検査 ・シルマーティア、フルオレセイン ・眼圧測定 ・眼底検査 ・その他
69～74	皮膚と耳に関わる技術 ・皮膚科の検査 ・耳介の検査 ・耳道の検査
75～89	総復習
90	定期試験

愛玩動物看護学Ⅱ

愛玩動物看護学科	3年次	前期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

愛玩動物の歴史や品種、適切な飼養管理方法について理解する

■到達目標

愛玩動物の歴史と品種、使役動物、飼養管理および動物の取り扱い方について理解する

■成績評価の方法等

出席点、レポート提出

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～2	犬の歴史・品種・飼養管理 ① ・歴史 ・飼育状況 ・犬の活用
3～4	犬の歴史・品種・飼養管理　② ・代表的な品種の特徴 ・飼養管理 ・品種に適したグルーミング
5～6	猫の歴史・品種・飼養管理 ① ・歴史 ・飼育状況 ・猫の活用
7～8	猫の歴史・品種・飼養管理　② ・特徴 ・ライフサイクル ・代表的な品種の特徴 ・飼養管理 ・品種に適したグルーミング
9～10	血統と血統書 ・血統書の意義 ・血統書の読み取り方 ・血統管理と品種改良

11～12	愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理 ・歴史 ・飼育状況 ・代表的な品種の特徴 　・飼養管理
13～14	ウサギの特徴・生態・飼養管理 ・背景 ・飼養管理
15～16	使役動物　① ・使役動物の歴史と福祉 ・身体障害者補助犬
17～18	使役動物　② ・その他の使役犬
19～20	動物の基本的な取り扱い　① ・動物を安全に散歩・運動させ、触れ合いさせることの意義 ・基本的グルーミング
21～22	動物の基本的な取り扱い　② ・定期的な予防管理 ・適切な飼養環境やストレスの緩和方法
23～29	総復習
30	定期試験

ペット生活環境学

愛玩動物看護学科	3年次	後期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

適正飼養の推進、災害時の危機管理のあり方について理解する。人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する

■到達目標

災害危機管理や動物愛護行政について理解する。飼養環境の整備、保護収容施設、教育・訓練施設といった様々な施設について理解する。

■成績評価の方法等

出席率、定期試験（模擬試験アプリによるデジタル試験）

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～2	愛玩動物の飼養
3～4	動物終末期（飼い主）ケア
5～6	適正飼養の推進
7～8	災害危機管理と支援
9～10	動物愛護管理行政
11～12	飼養環境整備
13～14	ペットツーリズム関連施設・ドッグラン
15～16	保護収容施設
17～18	ペットへの教育訓練施設
19～20	動物介在教育施設
21～22	ペット飼育のマナー・事故や怪我のリスクへの対応

23～29	総復習
30	定期試験

ペット関連産業概論

愛玩動物看護学科	3年次	通年	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

ペット関連産業に従事する者としての職業倫理、行動倫理を理解するともに、ペット仕様のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ

■到達目標

ペット関連産業における職業倫理を理解する。ペットの飼養実態と市場規模、関連産業の現状と課題を把握する。また、動物取扱業について学ぶ

■成績評価の方法等

出席点、定期試験（模擬試験アプリによるデジタル試験）

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～7	ペット関連産業における職業倫理
8～14	ペットの飼養実態と市場規模
15～21	各ペット関連産業の現状と課題
22～28	動物取扱業 ・第一種、第二種
29	総復習
30	定期試験

動物理学療法

愛玩動物看護学科	3年次	後期	15時間	必修	専門科目
			1単位	演習	専門科目

■授業の概要

動物の機能回復方法について理解する

■到達目標

リハビリテーション、体位変換について理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～3	基本的な活動性と動作能力
4～5	活動・運動能力に対するアセスメント 活動・運動能力に対する援助方法
6～7	対象動物の体位変換
8～9	リハビリテーションと動物の理学療法
10～13	代表的な理学療法の原理と手技
14	総復習
15	定期試験

グルーミングケア実習

愛玩動物看護学科	3年次	通年	30時間	必修	専門科目
			1単位	実習	専門科目

■授業の概要

動物看護としてのグルーミング方法を学ぶ

■到達目標

看護動物に対してのグルーミング方法の理解と実践

■成績評価の方法等

出席点、定期試験（実技試験）

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

プロトリマー科の実務経験者又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～8	グルーミング方法 ・爪切り ・パッド、お腹周りのバリカン ・部分カット ・シャンピング、ドライの方法 ・薬浴
9～12	成犬へのグルーミングの実践
13～20	老犬へのグルーミングの実践
20～30	看護動物へのグルーミングの実践

動物繁殖学

愛玩動物看護学科	2年次	後期	30時間	必修	専門科目
			2単位	講義	専門科目

■授業の概要

繁殖に関わる形態機能、および妊娠、分娩、新生児管理などについて学ぶ

■到達目標

繁殖に関わる形態機能、妊娠、分娩、新生児管理などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	性と性周期　① ・生殖とその分類 ・生殖器の基本的な仕組み
3～4	性と性周期　② ・生殖機能調節に関わるホルモン ・発情徴候と発情周期
5～6	性と性周期　③ ・受精と妊娠
7～8	性と性周期　④ ・分娩と助産、帝王切開
9～10	性と性周期 ⑤ ・異常分娩、難産のケーススタディ
11～12	性と性周期　⑥ ・遺伝子と器官発生 ・人工授精
13～14	性と性周期　⑦ ・去勢手術
15～16	性と性周期　⑧ ・不妊（避妊）手術
17～18	新生子管理 ① ・新生子期とは ・新生子のための飼養環境
19～20	新生子管理 ② ・解剖学的特徴

21～22	新生子管理 ③ ・生理学的機能
23～24	新生子管理 ③ ・新生子の管理/看護 ・狼爪切除、断尾、断耳
25～26	新生子管理 ④ ・遺伝疾患
27～29	復習
30	定期試験

動物内科看護学実習Ⅱ

愛玩動物看護学科	3年次	通年	150時間	必修	専門科目
			5単位	実習	専門科目

■授業の概要

看護動物や老齢動物の看護管理の仕方を学ぶ

■到達目標

看護動物や老齢動物の食餌ケア、投薬、グルーミングケアを理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～150	看護動物や老齢動物に対しての飼育と管理 バイタルチェック、グルーミング、体重管理、投薬などの継続的な実践

動物外科看護学実習Ⅱ

愛玩動物看護学科	3年次	通年	60時間	必修	専門科目
			2単位	実習	専門科目

■授業の概要

外科手術の実践を通し、実際の現場での動きを学ぶ

■到達目標

各役割に沿った動きを理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～20	外科手術の実践① ・去勢手術と避妊手術
21～40	外科手術の実践② ・スケーリング
41～60	外科手術の実践③ ・その他手術

動物飼育管理実習Ⅲ

愛玩動物看護学科	3年次	通年	60時間	必修	専門科目
			2単位	実習	職実実践科目

■授業の概要

動物看護過程、疾患別看護などの実践を行う

■到達目標

動物看護過程、疾患別看護を実際に行うことで、その知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート提出

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授　業　内　容
1～57	骨格系、筋肉系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、 消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系 　模型や生体を見ながら名称・配置・形態・機能を確認 スケッチや触診などでも確認
58～60	定期試験

動物看護学総合実習Ⅲ

愛玩動物看護学科	3年次	通年	60時間	必修	専門科目
			2単位	実習	職業実践科目

■授業の概要

提携先の動物病院などで実践を行い、より実践的な技術・知識を習得する

■到達目標

実際の病院で実務を行い、即戦力なる知識・技術の習得を目指す

■成績評価の方法等

出席点、レポート提出

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～15	アイピーシー付属動物病院へ実習
16～30	宇野獣医科病院へ実習
31～59	病院業務の実践 アイピーシー保有犬の往診実習
60	定期試験